

Technology Creatives Program

2024 年度自己評価書

I プログラムの現況、目的及び特徴

事業概要

エンジニアとデザイナーが価値創造スキルを身に着け、先端技術を活用して社会共創の機会をつかむための「価値創造人材育成プログラム」を開発し、拠点を形成する。テクノロジー、アート・デザイン、ビジネスの全方位指導体制を通じて「エンジニア×デザイナー」の人材プールとネットワークを構築する。

実施内容

- ①少数の社会人受講者を対象とする教育プログラム Technology Creatives Program（通称 テックリ）を開発する。従来に無い新しい価値創造のため、パーパスを設定し、課題発見、解決方法提案および実施を自らリーダーシップを発揮して先導できる能力およびマインドセットを備えた「尖った人材」を輩出する。
- ②プログラム修了生が互いに助け合い刺激しあう実践共同体を組織する。この実践共同体は、我が国における価値創造人材プールとなる。この実践共同体には、大学教員や社会人メンターも含まれ、事業終了後に開始される FD プログラムやイベントの拠点となる。

II 基準ごとの自己評価

評価項目	評価内容（概要）	評価結果 （自己評価）	改善の方向性 （必要に応じて）
教育プログラムの改善	社会人のニーズや学びの効果をフィードバックしながら、毎年改善を続けている。 オンライン講座 NVCA のコンテンツを充実させ、プログラム内では反転学習として効果を上げ、実践共同体での活用も可能としている。	◎	今後も産業界やその人材の動向を踏まえ、学びの効果向上のためのプログラムのマイナーアップデートを継続
価値創造のためのリーダーシップを発揮できる人材の輩出	修了生が社内外で価値創造に関するプロジェクトを立ち上げ、活動を継続している。	◎	各企業で新価値創造についてのスキルやマインドセットを学んだ社員の数が増え、企業内での活動がしやすくなるように働きかける。
学習成果の把握と活用	受講生のリフレクションやインタビューなどによりデータを蓄積し、その分析を通じて受講前後のスキルやマインドセットの変化を把握し、学びの状況をプログラム改善に活用し始めている。	◎	データ分析結果の活用に向けて、学会など公開された議論の場を持つ。
実践共同体の形成	毎年の修了生がトレーナーとしてプログラムとの継続的な関わりを持ち、プログラムをサポートするとともに学び続けている。	◎	今後もアルムナイを中心に、お互いに刺激しあい、学びを続ける場を維持する。

Ⅲ 総括

本プログラムでは、毎年プログラムのモジュールの区切りごとに集中検討会を開催し、教育内容の改善および拠点形成に向けた議論を継続的に行っており、プログラム開発が着実に進展している。受講生の学習データの収集と分析も開始され、教育内容の質的向上に貢献している。

オンライン講座「NVCA」のコンテンツは順調に拡充されており、プログラム内では反転学習の教材として活用されているほか、実践共同体において継続的に学ぶためのインプットとしても機能している。

各期の修了生はトレーナーとしてプログラムに継続的に関与し、複数回のプログラム経験を通じてテックリにおける学びのありかたへの理解を深めている。彼らは講師陣との議論において有益なインプットを提供し、教育内容の改善に寄与している。また、メンターとして講師陣と密接に連携することで、拠点形成の中核人材として成長している。

以上の取り組みにより、本プログラムは「価値創造人材の輩出」と「実践共同体の形成」という目標に向けて、着実に成果を上げていると評価できる。

一方、力をつけた修了生が企業に戻って、活躍の場が与えられているかという点ではまだ十分とは言えない。価値創出活動における若手人材の活用についての連携企業への働きかけを強化していく必要があり、そのアプローチについて検討をしていく。

以上